

平成30年度 第1学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業についての分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的指導の計画	成果○と課題●
国語	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が平仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。 8割以上の児童は教科書をすらすら音読することができる。大きな声ではっきりと音読できる児童は6割程度である。 9割の児童は、促音や拗音を正しく理解しているが、文章の中で正しく使っている児童は6割程度で、更なる習熟が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに児童と一緒に学習計画を立て、児童一人一人が、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 常に皆に聞こえる声で発言することを意識させる。聞こえなかった時はやり直しをし、よかった時は認めて褒めるようにする。 毎週1回、日記を書くなど、身の回りの出来事を文章に表す機会を増やすことで、正しい表記で書く指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に応じて、ペアなどで話し合いをする活動を取り入れることで、他の児童と学び合いながら学習できるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日のひらがな・漢字練習、毎週の日記指導で、8割の児童が、ひらがな、学習した漢字を正しい表記で書くことができる。 ○音読の宿題の成果もあり、9割の児童が、教科書をすらすら音読することができる。 ○学芸会の取り組みの成果で、意識して皆に聞こえる声で発言する児童が多くなった。 ●促音、拗音を正しく書くことができない児童が、まだ1割いる。国語だけでなく、文章を書く機会を増やし引き続き指導する必要がある。 ●9割の児童は、テストなどでは学習した漢字を正しく書くことができるが、日記などに活用できる児童は2割程度なので活用する力を付ける必要がある。
算数	<ul style="list-style-type: none"> たし算、ひき算の計算は、9割の児童が計算の意味を理解して、正しく計算できている。 文章を読んで正しく立式できる児童は7割程度で、更なる習熟が必要である。 10までの数については、全員が構成を理解しているが10より大きな数になると、2割程度の児童が仕組みや構成の理解が難しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では、これまでの学習で分かっていることを確認する。分からないことは既習事項を使って考えることを習慣付ける。 問題を解く際は、図、ブロック、式を使って考えさせる。 ブロックなどの具体物を児童がすすんで使うことで、理解の定着を図るようにする。10のまとまりを常に意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が成就感を味わえるように、問題数を調整したり適宜教科書を振り返ったりするなど、個人差に対応できるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では、既習事項を使って考える習慣を付け、電子黒板を使って分かりやすい指導をしたことで、9割の児童が学習内容を正しく理解している。 ○文章問題の学習では、問題文の重要な個所に印をつけたたり、図を描いたりすることで、8割程度の児童は、正しく立式できるようになった。 ●ケアレスミスがあるので、じっくり問題を読み見直す習慣を付ける必要がある。 ●問題数の調整では対応できないほど、個人差が大きくなっているため、2年生に向けて対応を考える必要がある。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が学校探検をしたり、アサガオを育てたりするに関心をもって意欲的に取り組んでいる。見付けたことを言葉で表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が成就感を味わえるようにするために、児童の思いや願いを引き出すようにして単元の計画を立てる。 活動ごとにグループを作ったり、全員で話し合ったりすることで、言葉で表現することに慣れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで気付いたことなどを伝え合う活動を取り入れたたり、体験したことを発表する場を設定したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しかった、こうしたい、といった思いを伝えたい経験をさせることができ、自発的に気付きを交流している場面が見られた。 ○絵や文字、言葉等で表現させる機会を多く作ることで、言葉にできない児童も様々な形で気付きを表現できた。 ●動植物の世話など継続的な活動では、意欲が続かない児童もいたため、教室での活動や掲示を工夫していく。

平成30年度 第1学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8割の児童が、拍の流れにのってリズム打ちをしたり歌ったり演奏したりすることができる。 ・楽器の基本的な奏法の定着に課題のある児童も1割程度見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と互いに奏法を確認し合う活動や個別指導を充実させ、演奏するための姿勢や奏法を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した歌を中心に、学芸会の劇中に取り入れることで、常時活動において歌を歌い、音楽の日常化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽専科の授業を2、3学期に2時間ずつ実施し、鍵盤ハーモニカの基本的な奏法の指導をした。その後もそれを基に指導し、定着を図った。 ○学芸会の劇中に歌を取り入れたことで、全員の児童が歌うことが好きになり、取り組みが意欲的になった。 ●いろいろな楽器に触れ、奏法を身に付ける時間が少なかった。
<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8割程度の児童が、感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表すことができる。 ・はさみやのりなどの道具の使い方を十分に習得していない児童が1～2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で話し合いをさせたり、自分の経験を思い出させたりすることで、作品の構想等を自分で練ることができるようにする。 ・課題に入る前に、練習教材を用意し、あらかじめ練習できるようにする。また、教師が実際にやってみせたり、ICT機器を活用し模範動画を見せたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具等の使い方に関しては、集団だけでなく個別にも指導、支援したり、個に応じた教材を用意したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見本を見せることで、どの子もスムーズに活動に入ることができた。 ○描く方法や技法に丁寧に取り組ませることで、表現の幅が広がった。 ●一人一人に具体的な指示を出すよう努めたが、十分にはできず、道具の使い方の習得が十分ではない児童がいる。家庭への協力を仰ぐとともに、練習教材の更なる充実を図る必要がある。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整列や準備運動などの基本的な集団行動は、8割以上の児童がきちんと行うことができる。 ・折り返しリレーや鬼遊びなどのルールを理解することに課題のある児童が1割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域においても、ルールを守って友達と仲よく活動できるように、始める前にルールを確認する。 ・振り返りや自己評価が記入できるような学習カードを作成・活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループでの学習を多く取り入れ、友達のよさに目を向けさせていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルールやめあての明確な提示をすれば、多くの児童が、ルールを守って友達と仲良く活動することができた。 ●振り返りや自己評価が簡単に記入でき、児童が学習の見通しと過程を一目で見取れるような学習カードを活用していく必要がある。